会員のひろば

北海道医報では、特定の個人・団体を誹謗、中傷する内容等を除いた幅広い多様性のあるご意見を掲載させていただいております。

多言語学習について

札幌市医師会

柴田（しばた）　睦郎（むつお）

病気退職後しばらく休診していましたが諸先生のおかげで体調も良くなり、札幌市の夜間休日急病センターの準夜帯の協力医として小児科を担当しています。最近は観光、滞在、留学などで外国の方々も来所しています。ナースの方々はセンター備品の翻訳アプリを使われているようですが、来られる方はスマホを上手に使い問診票を埋めておられるようです。そんな時に挨拶だけでも来所者の母国語で話せたらと思います。

若い頃、私は上司の紹介でスウェーデンに留学しました。準備として当別町のスウェーデン交流センターが札幌市内で開いていた会話講座を受講しました。初級コースのみでしたが、簡単な挨拶はできるようになりました。留学先で自己紹介を英語ではなくスウェーデン語でしたところ、一瞬、場が和んだように気がしました。ヨーロッパは多言語話者が沢山いますし、スウェーデンにはヨーロッパはもとより世界各地からの移民、留学生が大勢いました。移民の人はスウェーデンの語学研修の出席で交通費などをもらえ、帰化もしやすくなると聞きました。医師は小学校教師資格の語学試験に合格すると自国の免許が有効になるとの事でした。私自身は英語は好きで独学していましたが教養の時のドイツ語は会話が苦手でとても多言語話者にはなれそうもありませんでした。それでも、欧州12カ国語の一覧単語帳などを眺めたりはしていました。２年弱の留学を終え、帰国して道内の病院小児科に勤務しました。多言語話者や多言語学習にあこがれの気持ちを持って、語学関係の読書を楽しみました。

北海道にゆかりのある２冊の本が手元にありますのでご紹介します。

１冊目は2015年発行の講談社BLUE BACKS『50ヵ国語習得法（旧版は1994年出版の40ヵ国語習得法）』です。著者は新名美次先生です。札幌市の生まれで北大卒業後渡米しニューヨークで眼科を開業しています。この本には語学学習のヒントの他に50カ国語のアルファベット、挨拶と数詞（１から10）のリストがあります。挨拶は大体同じ配列です。発音はカナを振ってあります。挨拶は私が和訳しますと「ありがとう」、「どういたしまして」、「おはよう」、「こんにちは」、「こんばんは」、「おやすみなさい」、「さようなら」、「お元気ですか」、「おかげでげんきです」、「どうぞ」、「はい/いいえ」の順番に配列してあります。面白いのは古典語のラテン語のリストも収載されています。（最近ラテン語さんという方の書かれたSB新書で『世界はラテン語でできている』という本を読みました。最後に『テルマエ・ロマエ』のヤマザキマリさんとの対談がついていました。）続けて脱線してしまいますがチャールズ・ベルリッツ　中村保男訳　ベルリッツの『世界言葉百科（新潮選書：原題NativeTongues　平成元年８刷）』には世界一簡便な29カ国語会話表が載っています。このリストには「失礼ですが」「どうぞ」「～はどこですか？」「おいくら？」「ええ」「いいえ」「よろしい」の７文例が載っており、発音の簡単な説明が追加されています。発音記号等は書かれていません。

もう一冊の本はちくま文庫『20カ国語ペラペラ　私の外国語学習法』種田輝豊　2022年です。この本は1973年に実業之日本社から刊行されたものを文庫化したもので、やはりポリグロット（多言語話者）の黒田龍之介先生が解説をしています。私は昔読んだ覚えがあるのですが、再読したくて札幌市図書館に依頼して相互貸借をお願いして道立図書館の蔵書を読みました。その後文庫化されたので、手元に置きたいので購入しました。著者は1938年広島県生まれですが網走市に移住し、高校生（網走南が丘高校―余談ですが高校教員の亡父の初任地）の時交換留学でアメリカに留学。その頃から多国語学習をして、その後英語雑誌（The English Journal）の編集長などを経てアメリカに移住して通訳、翻訳の仕事に従事して2017年に亡くなっています。この本には多国語学習のヒントが沢山書かれていますが、リストは語群ごとの数詞と「手」を表す語の比較のみです。巻末に体験的速習術29項がありますが、達成目標が高く実践するには相当の努力が必要そうです。

実は北海道ゆかりのポリグロットの話題を選んだのには伏線があります。YouTube動画で初対面の人に相手の母語で挨拶をするKazu Languagesを楽しんでいて、彼の『ゼロから12ヵ国語マスターした私の最強の外国語習得法（SB新書653，2025年）』を購入したからです。彼は名古屋在住で北海道とは縁がないようです。

あちこち脱線しましたが、北海道に関わりのある多言語学習者である新名美次先生と種田輝豊さんを紹介しました。私の教室の山田名誉教授は退職後英語の教授をされていて趣味はロシア語とおっしゃっていました。学生時代、解剖をお習いした児玉譲次教授も、多言語学習者だったと記憶しています。